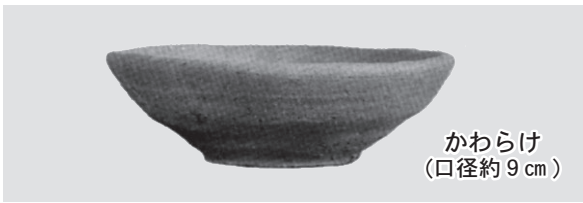


発見!

牛久のお宝

問 文化芸術課(中央生涯学習センター内) ☎871-2300

第11回 戦国期のかわらけ



かわらけ
(口径約9 cm)



かわらけの出土状況
(明神遺跡)

戦国時代、後北条氏と佐竹氏の勢力が争っていた最前線の城が牛久城(城中町)でした。そのため後北条氏は堀や土塁を備えた牛久城に、多くの兵を置いて守りを固めたとされています。牛久城の北側に位置する明神遺跡(城中町)は、平成25年に発掘調査が行われ、台地を縦横に区切る、深さ最大約3 mの堀などが見つかりました。堀からは、約80点のかわらけが直径約1.5 m、厚さ約0.4 mの範囲に折り重なるように発見されました。かわらけは素焼きの土器で、使い捨ての器だったと言われています。明神遺跡出土のものは、おそろく盃として使われ、壊れていない状態でまとまって出土していることから、ただの廃棄ではなく、儀式や祭祀が行われていたと考えられます。

◆今回紹介したかわらけは、かっぱの里ギャラリー(かっぱの里生涯学習センター内)で展示中

里山の樹木

問 都市計画課
☎内線2524

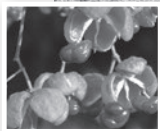
結実期の樹形: 結束町雑木林の周囲
平成23年11月20日撮影



第36回

マユミ

ニシキギ科ニシキギ属の落葉広葉樹の低木。北海道〜九州の低地と山地に分布。市内では雑木林などの自生のほか、植栽もあります。樹皮は灰白色で老木になると縦に裂けます。葉は対生、縁に細鋸歯があります。葉



裂開した果実と種子: 猪子町雑木林
平成17年11月27日撮影

※牛久の里山樹木ハンドブック49ページ掲載。本の問い合わせは牛久自然観察の森(☎874-6600)まで
【資料提供】NPO法人うしく里山会(文章: 平塚芳雄、写真: 渡辺泰)

身は長さ5〜15 cm、幅2〜8 cmの長楕円形。花序は本年枝の最下の葉より下から出て、黄緑色の小さな花を1〜7個つけます。開花期は4〜5月、花は径約1 cm、4枚の花びらが平開します。果実は直径1 cm、倒三角形で4稜があり、10月〜11月、美しい淡紅色に熟し、赤色の仮種皮に包まれた種子が現れます。名前は漢字の真弓で、この材で弓を作ったことに由来します。

「牛久の巨樹」発売中 ※お求めは都市計画課まで(1,200円)

文芸さろん | 師走 |

古寺を出れば賑わう酉の市
冬めくや富士の山にも雪が降り
蟬螂や子孫残して眠りおり
けんけんばつ 落葉はうたふ子ははぜる
十二時の昼のチャイムやそばすする
かっぱ米のせんべい焼いて
あったかほっぺ 長澤さん
佐渡おけさ民話の世界にさそわれて 草葉
冬の海から夕陽をのぞむ



渡辺さん

富美子
静枝
倭文子
匿名希望
我氏

<次回募集テーマは「冬」>

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など
【あて先】〒300-1292牛久市中央3-15-1
「広報うしく文芸さろん」係 FAX: 873-2512
E kouhou@city.ushiku.ibaraki.jp
【記載事項】作品、氏名、電話番号
匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)

